グループファシリテートによる　対話討論会　　平成１６年　１月　発行

丹生ダムかわら版２

第２号　発行／「丹生ダム対話討論会」　ホームページアドレス　http://www.biwako.ws/seibi/

平成１５年１２月２０日（土）、第２回「丹生ダム対話討論会」が開催されました。

２回目の丹生ダム対話討論会が行なわれました。前回に引き続き、同じメンバーのグループで（３グループ）前回の議論を踏まえ、もう一歩踏み込んだグループ内の議論が行なわれたようです。

今回の討論は、各グループで違った展開を見せたようです。議論の方法に議論の時間を費やしたグループ。一つ一つテーマを決め進めていったグループ。前回の意見を調整しながら意見を膨らまし、より深く議論に入ったグループと様々な熱い議論が展開されました。

今回の対話討論会で、どんな決着を目指すか久先生の私案として冒頭に先生から方向をご説明いただきました。

ファシリテータース先生

① 丹生ダムに関わる論点を整理しましょう　＜第2回前半＞
第1回で出された意見に第2回目で意見の補足をおこなったあと、それらの論点を整理します。その際、目的と方法をきちんと仕分けすることが大切です。
② 論点の構造を考えてみましょう　＜第2回後半＞
出されたそれぞれの論点がどのような関係になっているのか、その構造を整理してみましょう。ある程度整理ができれば、論点として漏れはないかをチェックしてみて、さらにそれらを深めていく、あるいは広げてみましょう。
③ 論点をつめていくために必要なことは何であるかを考えてみましょう　＜第3回＞
論点同士の調整が必要である部分はどこにあるのか、を考え、それを煮詰めていくには今後どんなことが必要なのか、考えてみましょう。データによる説明が必要なのか、シミュレーションが必要なのか、あるいは、利害調整のための話し合いが必要なのか、いろいろなことがあると思います。この時点でも、ダム建設の是非を問うところまで議論がつまらないと思います。また、是非を考えるためには、データーやシミュレーションなどが必要になります。今回の3回の対話討論会では、ダム建設の是非を考える次の段階の対話討論会に必要なさまざまなデータを準備するために、国土交通省としてどのような調査検討作業が必要かを整理するための意見を整理できれば、と考えています。
第3回目の終了後、すぐに国土交通省としてすでに実施されている調査に加え、どのような調査検討が必要かを、対話討論会の内容を十分に尊重しながら調査検討の計画づくりに入ってもらいます。調査検討項目一定整理ができた段階で、再度みなさんに集まっていただき、対話討論会の内容をきちんと受けとめた計画になっているかどうかを評価してもらう機会を設けたいと思います。

第１グループ討論風景

第２グループ討論風景

第３グループ討論風景

第1グループ

【　討論参加者　】
・鳥塚五十三・岸上　広　・轟保幸　・野村東洋夫
・河合亮二　・三國晷弘　・石山一光・谷口浩志　（敬称略）
グループファシリテーター：　横山　葵（有限会社　エイライン）

第2回完成　シート

周辺環境と現状

- 堤防・洪水時の恐ろしさについて
- ダム周辺の環境があれている
- 河床部に立木が多くはえている洪水時に2次災害の原因になる
- 山に人が住まなかったので山が荒れている
- ダム湖周辺の自然公園化
- 治水、水質、流量、山地保全
- 人と自然が共存していない
- 山の生活を守る対策を検討すべき
- 洪水・歴史の伝承
- ブナ林を切ってしまい環境が変わった
- 山のボランティアが長続きしない
- オリの中で人間が生活している（動物がおりてきた）
- 山の開発が問題
- 山の生活者が生活できるようにする
- 自然を守り、共生していく為、先輩達の考を取り入れる必要がある

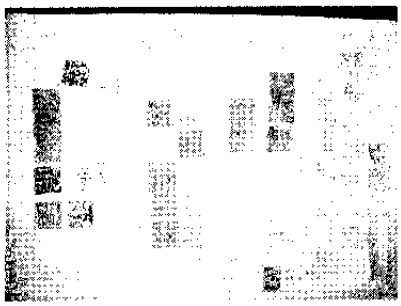
起きている問題

- 冬の水は水あまり（雪解け水）
- 川が汚れている（濁水）原因が知りたい
- 湖北では水余りではない
- 魚の種類が減っている
- 瀬切れがおこる
- 地球の温暖化
- 表面水は地下水にもぐり減る
- 地球温暖化 降水量の変化が激しくなる → 洪水・渇水頻発
- 川が汚れている（土砂で）
- 地球温暖化 降雪量の減少 → 融雪水の減少 → 河川流量の減少 水利用不足

手法的課題

- 水量保全 水環境 生態保全
- 川を守る為に山を守る
- 農業用水が取りすぎている
- 機械的な操作は問題である
- 農業排水が課題
- 雪解け水が少なくなる
- 農業用水の取水管理の現状を調査
- 琵琶湖の水をすい上げて
- 電気代が問題
- 琵琶湖の水位保全
- 農業用水の利用形態に問題がある
- 琵琶湖の水位操作
- 丹生ダムでは工事用道路も殆ど完了近い。本体工事を残すのみで早期の本体着工が必要。
- 丹生ダムと山林の管理について

シート写真



第2回　討論風景

グループファシリテーターの意見

１回、２回目と広範囲で様々な御意見が参加者の皆様方からいただけました。まず、第１段階の区切りの会になる次回を全員が議論のしやすい場にするために、今までの御意見を拾い出しテーマごとに分類したものを使いながらいろいろな角度から議論を深め、第一段階の到達点である調査検討の為の意見項目を一つでも多く参加者の方々の意見が詰まったものにしていきたいと考えています。

第2回　全体報告

報告者　：鳥塚五十三　　サブ報告者　：野村東洋夫

1. 治山
2. 利水
3. 環境

◎ダム周辺環境の現状について

- 山全体の保水能力低下が起っている。
- 伐採等が原因で川が汚れている。
- 山の環境の変化で動物達が里山に下りてくる。

◎洪水と瀬切れ

- どのように考えていくかが重要である。
- 農業用水についての議論があった。

検討課題

環境水の確保	安全に生活できる環境を	水余りについて調査 ダム建設の費用・水量・水質	3つのゾーンに分けて考える
河川維持用水 水量の確保 ・雑用水、 ・魚類の遡上降下に必要な水量	丹生ダムの「環境改善容量」（琵琶湖）	自然の営みに対して謙虚な姿勢・考え方を持つべき	淀川から琵琶湖
・高時川で確保 ↓ 琵琶湖・淀川にも役立つ	流量に対する対策を検討する	ダム建設の意思決定における住民のかかわり方	ダムサイド上流
河川環境 ・心の安らぎを与える ・水と緑がある ・いつも水が流れている ・魚等が住んでいる	他の方法で対応することはできないかを十分に検討されたか、確認する必要がある	淀川下流部の水余り	高時川河口からダムサイド
・魚類には砂、小石が必要	影響の及ぶ範囲をできる限り広く深く識り、考えることが大切	水余りについて今までの水源県と下流府県とのやりとりを知りたい。	
討論会・意見交換の場作り、対立の解消	河川の流量が絶対的に減少している。理由は何か。厳密なデータ収集が必要	需要水余りについて調査	
ハザードマップ、防災訓練、防災への伝承、ソフトの強化	高時川の環境保全	管理者は水需要について調べる。	
地域住民の思い（ダム周辺）		一般の水需要について調べる。	

- 山を守るための試みがいろいろあるが、ボランティア活動等は限界にきている。生活収入を得る状況を作るべきである。
- 治山治水に尽きる。
- 瀬切れ防止にポンプアップの仕組みが有効。
- 電気代がかかる
- 高時川も、姉川も流量が多かった頃には、農業用水としてとられても大丈夫であったが、その頃と自然環境が変わってきている。
- 夜も昼も水量が同じで農業用水が出て行くことは、この操作の原点を見直すべきである。
- 頭首工で水を取るのではなく、琵琶湖の逆水をポンプアップして使うと金がかかる。
- 高時川は扇状地であるので表流水が地下水に変わる量が多い。これの利用はないのか。
- 質の問題の中で大きく向上するように考えるべきだ。
- 機械的な操作で水量だけ満たしても生態系には、悪影響を及ぼす。

討論中に出た意見

- 事業が環境などに影響を及ぼすことについて考える必要がある。
- ダム以外の他の方法で対応していくということが十分に反映されているか。
- 事業に対して納得させてほしい。
- ダム湖周辺の自然環境について考えるべきである。
- 地域住民の思いを分かってほしい。
- 高時川の歴史を知ってほしい。
- 総合的に考えてひとつのことを決めていくべきである。
- 治水水質と流量について十分検討する必要があり、同時に隣地保全も行なうことが必要である。
- ハザードマップや防災訓練などのソフト対策についても同時に議論が必要である。
- 治水の歴史を広めてほしい。
- 討論会の仕組みを充実させる。
- 対立の構造を取っ払っていろいろな意見を聞くべきである。
- 望ましい川の実現。
- 環境水（河川維持用水、水量の確保、雑用水の確保、魚の遡上に必要な水の確保）の確保。
- 川のあるべき姿、心の安らぎを覚える、魚が住んでいる、川底に魚が産卵できる石がある。
- 地球温暖化。降水量の変化が激しくなるのではないか。
- 日本は雨の多いほうになるのだという話が出ているため現状で考えるのではなく未来に向けて考える。
- 琵琶湖に流入する川の流量を確保すると琵琶湖や琵琶湖から出て行く川に影響があり、このバランスをとることが重要である。
- 雪が少なくなってきた。北湖の水は、雪解けの水によって循環し、生態系が保たれてきた。
- 雪解け水は、自然のダムの役割を果し、その水は、農業の灌漑用水期まで確保されていた。
- 農業優先の水利用になってきている。
- 琵琶湖の水位操作によって環境など障害が出ている面を考える。
- 環境面で考えると、人間がコントロールしている地点でその上下で何が起こっているのかを把握し、個々に議論し全体を考えるべきである。
- 高時川にいつも水のある状態を作るには、どうするのか。
- 冬の水は、琵琶湖ではあまり、夏場は水が足らない。
- 100点の答えはない。
- 姉川の産卵流下量は、大変減っており、瀬切れが生態系に起こす影響が大きい。
- 瀬切れが起こらなくても、姉川の産卵流下量は回復していない。
- 7月末から11月22日まで瀬切れのままであった。
- 琵琶湖の水位操作でも環境がかわる。
- 琵琶湖の湖底部に水が入っていくなど、現在起こっている不自然な環境に対しては、人為的な操作が必要である。
- 民間公共など周辺環境での乱雑な工事（環境破壊）をしてしまっていることに配慮されていない。
- 姉川は、南風の影響を受け、高時川は、北風の影響を受けている。
- 山の崩落が進んでいる。ブナの木を切ったのは、大きく影響をしている。
- 琵琶湖や高時川の魚の種類が減っている。
- 集落に、サルやくまが降りてきて逆に人間が檻に入って生活しているのは、山に（上流に）人間が住んでないからではないか。
- 人間と自然が共存していた時代に生きていた現在の70才から80才の人たちにノウハウを今のうちに聞いておく必要がある。
- 川を守るには、山を守るべきである。
- 琵琶湖の環境にとっては、農業廃水が課題である。
- 皆が恩恵を受けたが、土地改良事業にも問題があった。

第2グループ

【　討論参加者　】
・丹生善喜・浅見勝也・コ玉博之・千代延明憲
・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博　　（敬称略）
グループファシリテーター：　森川稔(株式会社　アーバンスタディ研究所)

第2回完成　シート

異常気象

国民的コンセンサスが必要ではないか

想定している気象条件を明らかにしてほしい。将来との乖離はないか

異常気象について考えて欲しい

地域の異常気象
↓
ダム建設地でも起きている
伊香郡の降雨量減少
↓
川のせぎれ

大雨を想定した治水（異常ではなく通常）

何もしなくていいということではない
↑
気候変動
CO2

治水
～流域の生活を守る～

堤防工事が進んでいないのはなぜか？

ダム、堤防、浚渫など、それぞれの治水効果と地域への影響を明確にする必要がある。

堤防工事は長期間かかる。
地元は治水対策を長い間要望している。
↓
丹生ダム

治水の方法論のひとつとしてダムがある。

堤防の決壊被害を最小限にする努力

ダムの必要性のPRが不足しているのではないか

利水
～水需要の減少～

高時川の伏流水（地域の生活用水）
↓
貯水の必要性
地域の水需要も考慮すべき

半分は利水のため
↓
水需要から見たダムの必要性の再考

地域Ⅰ
～これまでの取組み～

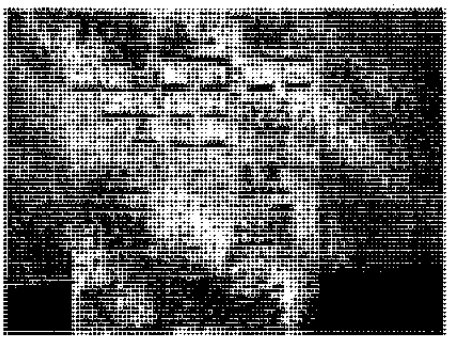
自然
～自然環境の保全～

地域Ⅱ
～地域の振興～

水のコントロール
～瀬切れの問題など～

財政
～負の遺産～

シート写真



第2回　討論風景

第2回　全体報告

報告者　：　南部厚志

○異常気象について
・異常気象について考えてほしい。
・何もしなくてもいいということではない。
・対応していくには国民的なコンセンサスが必要である。
○治水について
・堤防工事はなぜ行われないのか？
・治水対策事業の効果を明確にする必要がある。
○利水について
・水需要からみたダムの必要性を再考する必要がある。
・地元からみた水需要も考える必要がある。

討論中に出た意見

- 異常気象は現在世界的な問題になっている。
- 異常気象への対応については、国民のコンセンサスがなければ、実施には結びつかないのではないか。
- 異常気象の原因は、都会での人間活動にある。
- 人と環境がどのようにかかわっていくべきか（環境倫理、環境道徳の観点）を考えなければならない。
- 田舎の人は、環境倫理、環境道徳を大切にしている。
- 異常気象は人間のエゴで起こっている。人間はもっと謙虚になるべきだ。
- 高月町では過去に降雪量は２～３ｍあった。現在では、降雪量、降雨量ともに減っている。このせいで、高時川に異変（瀬切れなど）が起こっているはずだ。
- ダムを建設して水を貯水することで、川の環境の向上であったり、利水の向上であったりが実現できるはずだ。
- 今後、今までに経験したことのない異常気象による大規模な災害が起こることもありうるのではないだろうか。それについて専門的な意見を加味して、ダム建設の是非について検討していくべきである。
- ダム建設を異常気象対策のためとして作るのは、国民の新たなコンセンサスを得てやらないと、地域のエゴになる。
- 国民は健全に暮らす保障（法のもとの平等）が憲法で明記されている。
- 地方に住む弱者の生活を保障すべきだ。
- 利水や治水のように現実に近い問題を議論していくべきじゃないだろうか。
- 異常渇水時にある量を確保するための貯水量は計画されている。
- 治水は第一に考えられるべきことである。
- 高時川は大雨があったら、洪水が起こる可能性が高い。
- 堤防強化するという案もある。しかし、それを全ての川岸で実現するには長い年月がかかり困難である。
- 地元は堤防強化を求めているのに、なかなか国は実現してくれない。
- 結論として、水量調節がいいのではないかと思う。
- ダム建設と堤防強化両方やられていくべきである。
- ダム建設・堤防強化などの効果を明確にして、取り決めをしていくべきだ。
- 流域委員会では、堤防決壊した場合の被害をできるだけなくそうと考えている。対策許容量以上の水量で洪水が起こるなら仕方ない。
- 400年前の堤防を現在もつかっている。
- 国は地元の要望を聞いてくれない。
- ダムに替わる代替案は、地元の要望を満たすのだろうか。
- ダムの予算をまわせないのだろうか。
- 堤防の方が予算がかかる。
- ダム建設は過去短絡的に決定されてきたのではないだろうか。
- 対策事業の治水効果の明確化が必要。
- 堤防強化事業が行われない理由の明確化が必要である。
- 日本の地形（急な勾配な土地柄）を考える。
- ダムの建設が容易な地形である。
- ダム建設がもたらす弊害についても明確にする必要がある。
- ダムに対する水の需要は減っているのは間違いない。
- 工場で循環水を利用するようになった。
- 水需要は減るだろう。
- 利水にかかる費用が大きい。（琵琶湖にたまる泥水を循環して利用しているから）
- 大都会の思いで、田舎が振り回されている。
- 田舎の人は、下流にきれいな水を流したいと思っている。
- 水需要は、湖北では工業用水ではなく生活用水がメインである。
- 高月町は地下水を上水として使う。
- 湖北の水需要のためには、貯水が必要。
- 大阪の人は琵琶湖があるから、水の大切さをあまり感じてはいないのではないのだろうか。
- 下流域民の水需要は足りている。
- ダム建設が20年30年以上先の批判にも耐えられるのかどうか。
- 減反政策で、農家離れが進んだ。
- 元の方針が通っていくのがよいと思う。
- 水需要から見たダムの必要性の明確化。
- 地域の水需要の明確化。
- ダムの必要性について、役所のＰＲが不足しているのではないか。
- 地域の将来を考えた価値判断も取り入れるべきだ。

グループファシリテーターの意見

第１回討論会で抽出した８つの論点について、順に討論を進めた。「異常気象」については、予想される変動を十分に認識して対応を行っていくべきだ、との意見が出された。これに対して、異常気象は日本全体で起こっており、丹生ダムでの対応には国民的コンセンサスが必要だとの意見があった。「治水」については、洪水で苦しんできた流域の状況や今日なお脆弱な堤防のもとでの不安な生活、堤防改修に対する地元の強い要望にもかかわらず対応がなされなかった不満が語られ、その経過のなかでダム建設が選択されたことが述べられた。ダムは治水対策のひとつであり、ダム、堤防、浚渫などの治水対策事業のそれぞれの効果を明確にする必要性について合意された。また、堤防決壊した場合には、その被害を最小限にする取り組みが必要との意見があった。「利水」については、下流域での水需要が減少しているなかで、利水からみたダムの必要性について再考すべきだとの合意がなされた。また、長期的な水需要や地元の水需要という点から、ダムの必要性について意見があった。進行のまずさもあって、以上の３つの論点で時間切れとなってしまった。「これまであまり議論されなかった残りの論点についての討論が重要である」との意見も最後に出された。次回も活発な討論を期待したい。

第3グループ

【　討論参加者　】
・澤村宗一郎・近藤斉伸・西尾新治・立見安弘・泉良之
・澤村繁　　・川地勲　・井口賢一・小梶猛（敬称略）
グループファシリテーター：　　中村伸之（ランドデザイン）

第２回完成　シート

●話し合いの流れ

前回のおさらい → 気になる項目をピックアップ → 少し深めてみる

テーマ1：治水・利水

代替案

水害を容認する論理はどこにも存在しない。その治水対策としての具体的なものはダム以外にないのか

代替案があれば具体的な手法を検討してほしい

ダムに代る洪水の制御対策としてかすみ堤、二重堤、遊水地等の施工は貴しい。費用対効果でダムが有利。
①土地の確保
②経済効果
③ダムに匹敵する貯水量

むやみにダムの代替案として河川の改修（切下げ）をするのも問題がある。
（長い生活歴史の中で水とともに暮している。農業用水、地下水等）

ダムの有効性

姉川ダムの完成により洪水時の制水効果をPRする必要がある。（10号台風でダムの効果、下流に与えた成果は大であった。）

ダムは決して環境破壊だけでなく、新たな環境・景観を創造する。

治水・防災対策において、河川改修とダムの組み合わせで整備してほしい

基礎的データ

基本高水流量は適切な判断で決定されたと考える

高時川流域の地下土質分布の状況調査

水利権
現在の水利権どうなっているか。見直しが必要ではないか

山腹崩壊

流木が災害を助長するので流木対策を考えてください。

洪水時、上流部での岩石の流出を防止する。
・瞬時の出水防止策
・河川の急流をなくす

歴史・政治

治水問題
200～300年先のことを考える治水工事を考える。（木曽3川の治水工事を思い出してください）

高時川と姉川の合流点
びわ町鍵渡
浜ちりめんのふる里
水害に強い
桑の木→蚕さん

ダム工事は土木事として、利権集団にとって大きな魅力ではないのか。

テーマ2：税金・コスト負担・福祉

公共工事の中、砂防ダムや治水ダムは高速道路や長大橋の建設に比してその効果は即表れない。
日々、水害の不安におびえながら生活している多くの流域に住む人々の気持ちからすれば比較にならない。

国民の税金の使い道は（公共事業）医療、福祉、年金とは目的を全く異にするものである。

移転による住環境の変化は高齢者への負担が大きいと思われる。充分な配慮が望まれる。

すでに移転をすませてしまった人たちの思いも大切にしなければ。移転に対しては様々な思いがあっただろうがここにきて後ろ向きの議論をするとの議論はないのか？

テーマ3：環境・生態系

山と川の自然

瀬切れが生じることで、広く生物（植物、鳥類、昆虫類）に悪影響を及ぼしている。

ダムによって瀬切れの解消等よみがえる自然環境はあるが、ダム湖等により消滅する自然環境も考えられる。

自然
クマタカ、イヌワシの生息地である。大変貴重である。

森林の担い手は？

森林の保全？だれがどのようにするか

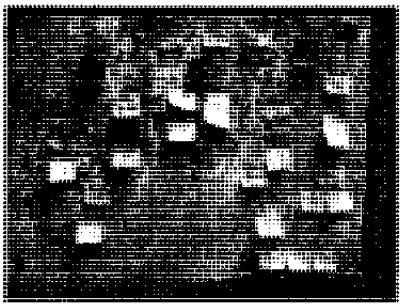
森林の保全については重要であるが、誰が保全整備（管理）をするかについて問題がある。

森林の効用

森林の公益的機能の恩恵にもっと目を向けるべきではないか。

森林の多面的な機能の評価について、調査研究を要す。

シート写真



第2回　全体報告

報告者　：西尾新治・小梶猛

5つのテーマで議論。
◎河川改修の困難性→ダムの必要性（高時川は天井川で流域も開発されていて、災害が起こりやすい）
→水利権など。流下能力を考えて、ショートカットやかすみ堤の指摘も。
◎水害の恐ろしさ　→ダムによって不安解消　◎ダムにかわるものはないかそれが行われていないとの批判。
◎渇水対策（生態系への影響）　◎コスト面での提案（住民負担）、税の考慮→他事業との関連。

第２回　討論風景

討論中に出た意見

- 治水代替案とも関連するが、かすみ堤については、十分調査検討されたのか。
- 堤防のかさ上げについて、洪水時に高い水位が続き、万一堤防が決壊したときの浸水域が広い。全てをかさ上げすると非常に費用がかかるが他の代替案にくらべると安価である。
- 遊水池については３３０万m3の治水を考えると１km²で深さ5、６m規模で６箇所ほど必要になってくる。1箇所では2.5km×2.5km（深さ5、6m）必要になってくる。高時川、河川周辺の高度利用を考えると遊水池の設置は難しいのではないか。（用地取得を考えると）膨大な費用がかかる。
- 堤防強化について、現状の堤防は材質がいいかげんなものが多い、また良質でできていても地盤が弱いので意味をなさないのでは。また地盤改良にしても費用がかかりすぎると思う。
- 河床掘削については天井川をなくすという点で有効であると考えられるが、残土処分の問題もある。今の河川改修は小規模にしてダムを作るべきであると思う。
- かすみ堤は戦国時代からの手法である。堤防の左右の高さが違うのは、用地争いから起こったことである。
片側から水を逃がす役割があったが、今の時代に周辺住民はこれを納得するのか。
- ダムの安全弁・放水路を作ってください。
- 公団が行なったものには水路があるので、それとつなげばいいのではないか。
- 水質は姉川にダムができてから汚れているだろう。
- 下流域に住んでいる者にとっては、豪雨の時は三日間くらいすごい悲惨な環境になっていた。
- 毎年水害で悩まされている。
- ダムが治水のための一番有効な手段であるか疑問である。
- 自然がつくったものをダムでコントロールできるのか。
- 雨の時はいつも川を眺めている。
- 姉川をみるとダムで水位が調整できているのは確かである。雨の時も川の水位が荒れない。
- ダムに替わるほかのものはあるが、天井川の暮らしの中で、いろんな影響がでるのでダムはすごい。
- 上流で石が流され、橋脚にあたったこともある。そのときの音はすごい音である。土石流を流さないようにしなければいけない。
- 代替案には具体的にはどんな物があるのか。
- 治水の立場から考えるとダムが全て悪ではない。
- 全て環境問題を起こしているわけではない。
- 高時川の堤防構造（地質）を調査して、本当に治水効果があるのか調査してもらいたい。
- ダムをつくる方向で考えてほしい。
- どういうメカニズムで湧水が発生しているのか調査してほしい。（天井川周辺地域）
- 堤防決壊の要因は３つある。（越流・洗掘・漏水）
- 堤防強化に関してはスーパー堤防（下流域）、洗掘されない被覆を行なうなどがあるだろう。
- 姉川ダムの効果をもっと報道してほしい。いつも被害があった時だけである。どれだけ被害を間逃れたのか。
- ダムの耐久年数はどれくらいなのか。
- ダム本体、堆砂、地耐力、それとも全てなのか。
- すごい自然林が残っていたのに、間違ったスギ・ヒノキが植林されている.全て雪で曲がったり折れたりした。
- 森林の公益的思想をもっと認識すべきである。
- 河川を掘り下げる時には、琵琶湖との関連もあり、どれくらい効果があるか調査しなければいけない。
- 河川改修とダムの両立が必要であろう。
- ダムで全てを守ることはできない、ただし（治水）全てを河川改修でやるというのはむずかしい。
- 治水対策から考えたときには河川改修（掘削）は必要であると思う。
- 流量の設定が大きく見積もりされているという発言が前回あったがどういうことか聞きたかった。
- 移転集落について、かなり抵抗があったと思うが話を元に戻すのはどうか。
- 環境がかわったことによる（移転住民の）ケアを考えなければいけない。
- 住民負担は国民負担である。（一般会計でおこなっている）税金である。
- 治水以外の目的と比べたときの評価の仕方について(医療・介護)問題である。
- ここの議論と国・県との関係がよくわからない。
- 知事はダムでいくと発言しているので、ここの議論の意味がなくなるのでは。
- 利水容量の改定、渇水対策容量の規模の設定によってはダムを変えることもある。
- 環境改善においては帯状の裸地を可能な限りなくすことが重要になってくると思う。
- 国土交通省の検討項目になる。
- そのときは土木的な調査にとどまらないだろう。
- 瀬切れ防止は重要である。魚だけでなく動植物に対しても必要であろう。
- 環境悪化を考えていかなくてはいけない。
- 森林の保水機能だけでは、ダムでコントロールするようなことはできない。
- ある段階までは森林の保水力は認められるが、洪水対策まではいかない。
- 渇水時において、森林は蒸発散するために流量が少なくなる。
- 農水省の多面的機能について答申として出している。
- 現時点でどれくらい森林保全をしているのか。
- 森林の要素はわかる。これを誰が管理していくかが重要である。
- クマタカ、イヌワシの生息地であるので調査が必要。
- 河川改修の水利権について、政治家が利権を握っているという。

グループファシリテーターの意見

今回の作業で、皆さんが関心をもたれているテーマがかなり絞り込まれたのではないかと思います。
次回はこれらを材料に、テーマどうしの関連・関係を探ってはいかがでしょうか。
「治水・利水」については、ある程度話が出尽くしたかと思いますが、治水と利水の関係がどうなっているのかを、さらに深めてはいかがでしょうか。「税金・コスト負担・福祉」のテーマでは、あまり意見が出ませんでしたが、移転住民も含めた地元へのケアは「福祉や地域振興」として考えられます。また、「誰のための治水・利水なのか」が「コスト負担」のテーマに関わってくるでしょうし、「山と川の自然」のバランスをいかに保つかが、適正な治水事業を考える鍵になるような気がします。このように、各問題にその場で決着をつけるのではなく、相互の関係性やバランスを考えることで、今後、国土交通省がどのような調査検討を行なうべきかが見えてくるのではないでしょうか。

傍聴者からの意見（第２回討論会アンケートより）

・会場設営について、グループ毎に会議室を分ける方がよい。
・異常気象の定義すらない中での討論は、時間の浪費と感じた。
・治水対策の討論の中で堤防の改修、強化、川底の浚渫そしてダム案それぞれにつて建設者に検討案が無いことでは、ダムの必要性に疑問を感じた。
・主催者はもっと情報を開示提議することにより、片寄った議論が防げると感じた。
・もう少し意見交換の機会を増やす必要性を感じた。
・ダムの効果把握が必要との意見は重要であった。
・丹生ダムは平成12年度に完成予定のダム事業で大幅に完成が遅れている。
・討論内容を聞いている「これから計画するダム」のごとく初歩的議論が多い。「治水」「利水」「環境」の位置付けから「環境」についての議論は理解出来るが。全体的な運営に疑問を持つ。
・討論の人の人数が多いと思われる。
・それぞれの分野の代表者に議論してもらった方が論点が明確になる。
・ファシリテーターも無理やりにでも整理する方向に持っていくけん引力が必要と思われる。
・３回でどのような検討結果がだせるのか疑問を持つようになった。
・様々な立場の人の意見を聞く事が目的であれば意味は大きい。
・傍聴者からの意見を聞く時間もほしい。
・色んな意見が出ており大変参考になったが論点をしぼっての議論をもう少ししてほしいと思った。
・地元の方の安全、安心を考慮した方向での取りまとめをお願いしたい。
・一傍聴者として、みなさんの意見をはっきり聞きとりたい。部屋を区切りマイクをしようしては。
・議論する中で論点となることに対してデーターの提供が必要。
・国土交通省は各論点をデーターにより説明する必要がある。正確な理解なしでの意見発表は意味がない。
・第１グループを傍聴した。課題を抽出して、その課題について議論をすることになり、課題は各人から提出された。
・丹生ダムの計画目的に対して、ダム反対者は目的そのものを必要ないと思っているのか、他に方法があると思っているのかを明瞭にすべきである。
・他の方法があると思っていれば、それはどのような方法かこれらの検討をしてほしい。
・ダムに対する、代替案が指摘されているが、ダム対代替案というのに、あれがいいこれがいいと「言葉」や「物」での討論がなされているが「数値的」「どちらがどれだけ形に表して効果的」なのか、考えるべきだ。
・具体的な討論がそろそろ始められてもいいのではと思った。
・対話集会の意見や、説明会での意見だけでなく、もっと一般の意見も聞く方法を探して欲しい。大多数の普通の住民は、わざわざ意見を言わないし、なかなか説明会にも行けません。
・原案があると聞く、なぜ提示しないのか。ー原案づくりの対話会ーなら効果がない。
・姉川、高時川の情報開示がなされていないのに討論するには問題が多い。　計画流量・降雨データー・確率規模の設定・地形地質の問題等。
・事業担当者が住民参加案という形で出来ている原案を極一部訂正して終わってしまう。
・地図（会場案内図）がわかりづらかった。
・第１回目よりも話が前進していった。ダム問題に対して自分の知識もより深まったし、丹生ダム問題の今後の検討も、この討論会の意見が反映されれば（もしくは、反映されなくても検討されれば）、一般の人達のダム建設への理解が得られるのではと感じた。
・普段、ダム反対を伝えることの方が多いマスコミ関係者の人達に聞いてもらいたい会だと思った。
・同じ行政的立場にいる者として、大変有意義な会と思って参加させて頂いております。身近なところからの意見の積上げでもう少しずつでもよりよい方向へ進んで行くように願っています。
・地図をもう少しわかりやすく使っていただきたい。
・グループ座席表をホワイトボードに貼ってほしい←最後の発表の時には外して構いませんので。
・進行役の方が瀬切れ問題は漁業者以外は関心がないですねと言って話を切られました。河川は水が流れて始めて河川であり、水はすべての生命の源です。川に水がないと言う事は生態系をこわし、琵琶湖の生態までこわす結果になると思います。なぜ瀬切れが起るのか頭着工の取水問題を含めてもっと真剣に取りくんでください。
・異常気象は現在は通常気象とみなすべきだとの事でした。とんでもない考えだと思います。世界各地で異常高温、大洪水のニュースが度々あります。現に今年は九州、四国地方は集中豪雨があり、東北地方は冷夏でした。簡単に片付けずに真剣に議論すべきと思う。大洪水が起ってからでは遅いと思う。
・ダム建設を前提に用地買収、集落の移転、関連工事の施工（主に道路工事）等、５００億円をこえる税金を使い、見直しなどと後向きの議論です。その他治水、利水、危険性を考えるとダムは必要と思います。前向きの議論を願います。
・３０数年間、姉川と琵琶湖にたずさわって生活して来ました。３０年前と較べると水質の悪化はひどいです。このままだと近い将来死湖になると思います。原因は農業排水だと思います。淀川水系全部に影響する事です。何か機会があれば考えて下さい。大事な問題です。

第２回討論会アンケート集計

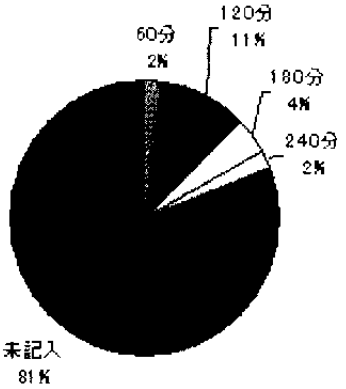
＊アンケートについては、皆様方から頂いたご意見を紙面の関係上、簡略化させて頂いており、また、似ているご意見については、まとめさせていただいております。

今回のグループ討論の運営への感想

・うまくまとめられていくと思う。
・良かった。
・ルールにのっとって、すすめている。
・もう少し論点整理をしてほしかった。

・時間を考えたまとめができていない→この時間ではむつかしいのでは。
・基礎原案に対する討論を深めるべきではなかったか。
・住民討論では、専門的手法は無理だ。
・議論のテーマを設定し、進行させたので話し易かった。
・他グループの声の方がむしろ大きかった。
・部屋を分けるのが当然である。
天井からの反響も障害となった。
・討論の話し声が傍聴者にはほとんど聞えなかった。
・これまでにおこなわれた議論を出発点にしていないので、この種の討論をくり返しても到達できるレベルは大変低いのではないかと危惧する。討論の輪が広がるという効果はあろう。
・第３グループでは論点整理のための事務的作業という色彩が強く感じられ、期待を裏切られた。
・もう少し積極的に運営をリードしても良かったのでは。
・もう少し傍聴者が移動して各グループの様子を見られるようにしてほしい。
・本当は声がきこえない。
・会場が大きいため各グループの音が入り聞き取りにくい。
・反対・賛成、それぞれのプレゼンを見てみたい。
・討論会の目的、課題を明瞭にしておかないと議論だけでまとまらない。
・傍聴者は発言者の声が聞きとれない。
・１班と３班を聞いた。司会者が謝っていた？が、“基本原案を白紙にする”ー参加者の信頼がゆらいでいた。
・討論の進め方に時間がかかりすぎて実際の討論が出来ていない。この方法なら討論時間を長くする必要がある。
・声が小さくて理解出来ない部分が多い。
・出来れば個室的な場所で出来ると良い（１グループごと）。
・現地調査も必要（川の上流）現場を知ること。
・テーマを設定し、何を明らかにするのかを条件としたので深い議論がされたと思う。
・グループ討議が充分聞えない。（会場設営がまずい）
・議論する方法がまとまらず、大半の時間を費やした。
・意味のない話、横へそれる話などファシリテーターは交通整理すべきだ。
・第１回、第２回で検討事項はまとまりつつあるようです。
・討論会の主旨を理解せず、自説の主張に貴重な時間を費やす討議者がいる。人選が悪い、前向の姿勢、建設的でないので、選考のやり直しが必要と痛感しました。
・実情を知らない（勉強不足）討議者は同じ人物である。
・議論をまとめ上げるのが非常に困難なのがわかった。
・自由討論と、まとめに向けてひっぱっていく、けん引力のかねあいがむつかしい。
・声を大きくして。
・流域委員会の討議会では、マイク設定など十分にされているのに、なんで今回、討論会ではないのか。せっかく周りで聞いていても何の話をされてるのか分からない。ワイヤレスイヤホンなどを考えてほしい。
・皆さんが意見集約などよく運営していたと思う。
・討論参加者の立場と意見の要約がほしい。
・グループごとに別室にした方がよい（聞きやすい）。
・河川管理者としての意見を述べるべきではないのか。（国土交通省として出席している人は、傍観しているだけのように感じました。）
・話中の声が非常に聞きとりにくい。
・以前に話が出た事のくりかえしになっている。
・第３班においては、もう少しまとめて発表してほしい。

討論会時間について



・ダムができた時の問題点、できなかった時の問題点、他ダムでの問題点を他ダムの地域の方から聞いて取り入れていこう。
・討論参加者全員が意見を言えて良かった。
・対立の形ではなく各々の思いを発表する形が良かった。
・地元の方の体験に基づく事実関係の説明には、計り知れない説得力がある。これらの情報を会場以外の人々にも知っていただきたい。
・方向がずれた時の修正はあったが議論を集約する運営ではない。意見を聞いているだけ。
・グループによって討論内容が多種多様であるのは面白い試みであるとは思うが、一部のグループでそれぞれ全く別のことを言い合い、討論として成立していなかった点が見受けられた。又、発言する人が片寄っているグループもあり、「意見のぶつかりあい」が少ないところもあった。
・意見も出やすく、議論が図られるので、討論会の方法としては良い。ただし、最終的に３つのグループの意見のまとめをどのように行うかが課題。
・課題の整理が遅く、討論時間が短い。
・設営が悪い。聞えない。
・前半、余りに多様な意見が出て、第１回目と変わらないのでは？と不安に思ったが、現状→問題→手法→課題と後半整理していったことで、何が問題で私達はなにが知りたかったのか、ということがよく理解できた。
・終わってみれば、前半に出たたくさんの意見も全てこの討論会では必要なことだったんだ、としみじみ感じた。お疲れさまでした。
・第１グループは前半は「会」そのものに対しての意見が多く、賛成or反対の意見をもっている方のすれ違いが多いように感じられたが、後半は主旨にあった意見、課題等について活発に交わされていたと思います。
・次回の進め方についても確認し合ったことで、それぞれの立場から意見なり、知りたいこと、要望等が多く出されると思います。
・最近の広報誌や新聞には「中止」の記事が多い。
・誤報道に対して何か手を打っているのか。
・真剣な姿勢で運営していただき感謝しています。
・広く一般に向けて広報してほしい。

この対話討論会を通じて驚いたこと

・洪水や水害の恐ろしさを知っている人が少ない。
・ダムの必要性が共有されていない議論がなさすぎる。
・地元の人々がダムに寄せる期待には、非常に大きな重みがあること。
・ダム建設が自然を守るという認識。

この対話討論会を通じて気づいたこと

・利害関係がありむずかしい。
・流域周辺の意見が重要視されるべきはずなのに、関係外の意見が強い。
・ダム建設中止の理由事項を探っているみたい。
・女性の参加少ない。
・私も含め、議論がかみあうよう発言しなければ非効率である。
・丹生ダムの是非について議論すべきだ。
・ダム反対意見の方の参加が少なかった。
・様々な立場、意見があって、面倒でもこれらをきちんと整理、議論する必要があると思った。
・ハラを割った意見が出ていたのか？

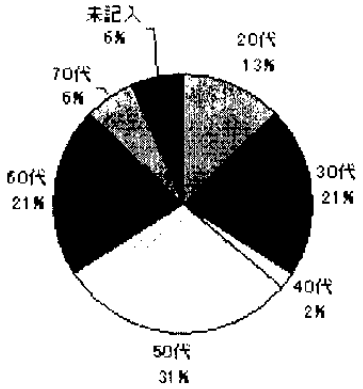
この対話討論会の問題点は何か

・地域住民の生命・財産を守るのが重要なのか、環境破壊を防ぐのかどちらが優先か。
・どうしたら人と自然とが共生できるか。
・淀川水系委員会の「ダムは原則として建設しない」の提言が気にかかり、真剣な討議ができない。
・この討論会は水系委員会を組織するまでに開催しておくべきである。
・テーブルについている人のダムへの認識に差がある。
・「分科会」という訳でもなく、何となく３つのサブグループに分けてもあまり意味がない。例えば地域分けにするとか、テーマ別にすることが考えられる。
・討論の目的があまり明確ではなかった。
・開かれた会の運営になっていない。
・解決とは何か？そこを考えたい。

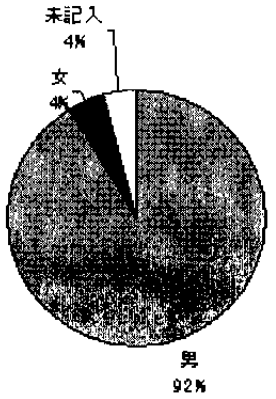
意見交換は十分にできたか

・総括論が話せていない。
・時間が少ない。
・時間がたりなかった。
・できた。
・設定されたテーマに対して、全てに議論ができずに終わってしまった。
・議論の時間が短く、工夫が必要である。
・時間が足りず残念。
・不十分。

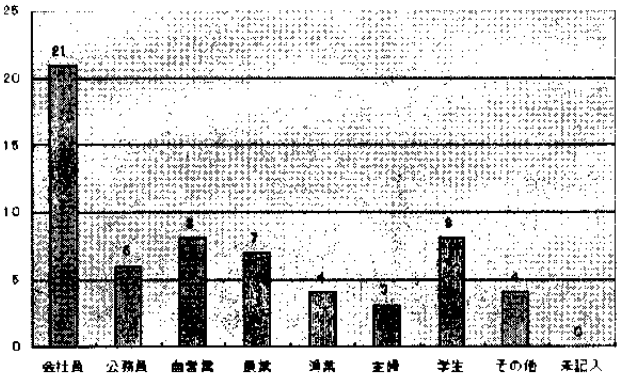
傍聴者・参加者　年齢別



傍聴者・参加者　男女別



傍聴者・参加者　職業別



今後の予定（対話討論会開催日）

第３回　2004年　1月17日（土）　13:00～15:30

長浜ロイヤルホテル　長浜市大島町38　TEL 0749-64-2000

※グループ内討論参加者名は、申し込み順で記載されています。御了承のほどよろしくお願いします。

お問い合わせ先　〒520-2279　滋賀県大津市黒津4-5-1
琵琶湖河川事務所　調査課内「丹生ダム対話討論会」係

TEL.077-546-0844（代表）